

大学図書館問題研究会 京都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橘女子大学図書館 小林倫道気付
(Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

第26回大図研全国大会に参加して

村上 美代治

今大会は8月19日から21日までの3日間、水と緑と詩のまち群馬県前橋市を会場にして開催されましたので、日頃の感想をも含めて報告したいと思います。

各地で今夏最高気温を記録するなか、当地も予想以上に暑く閉口しがらも、3日間頑張ってきました。京都橘女子大の小林氏が会報125号によって会場までの交通機関についての詳細な案内をして頂いていたのでこれを参考にしながら、といっても最後は体力と気力の限界を感じて最短時間でかつスタンダードな交通機関である新幹線を利用しての参加となりました。

私自身、長らく図書館現場を離れていますが、大学業務の一部署である図書館業務を間接ながら自分の業務にも役立てたいと常日頃から思っており、図書館現場での人員削減や予算削減などの困難な条件のなかで、さまざまな実践活動例や試みを吸収するとともに、問題点の把握に努めました。

本稿では初日に行われました全体会から感じたことを述べたいと思います。ここ数年来指摘されていることですが、支部活動が全般的に低調なことです。今回福岡支部が結成されたことは空白地域が狭まったことであり喜ばしいことなのですが、一方において会員数が現状維持に留まっていることです。このことをどのように理解すべきでしょうか。1994年度の退会者49名をどのように分析すべきでしょうか。これは既存支部ならびに点在会員の入れ替わりが見られるものの、全体では現状維持にとどまっていることを意味しています。

この点に関して若干日頃の思いを述べたいと思います。大図研が今後の大学図書館政策のなかで重要な位置を占め、オピニオンリーダーとしての役割を担うことはもちろんのこと、大学における図書館の地位向上のためには何が必要でしょうか。それは会員数の増加であり、組織力の強化だと思えます。大図研の会員が大学の職場ではもちろんのこと、図書館職場においてもどれだけその存在をアピールできるかどうか、すなわち、図書館の存在意義が大学のなかでどれ程理解されているかどうかにかかっています。たと

目次	全国大会に参加して(村上美代治)・・・1頁 お薦め本『情報を使う力』……………2頁 あなたもインターネットで世界へ……4頁
----	---

えば、現状では会員が図書館から他部署に異動することになった場合脱会されます。また会員に踏み留まってもケアがないことから数年後には脱会されます。この点をなんとか解決して、会員に踏み留まってもらい図書館の良き理解者になってもらう活動も必要ではないかと思ひます。また、教員や他部署との連携の必要性（以前本会報にて教務事務関係の職部との連携の重要性について執筆しています。）をも改めて強調したいと思ひます。国立、私立といった館種を問わずして、どれだけ図書館以外の人たちに図書館の重要性を説くことができるか否かが図書館の発展の可能性を左右すると思ひます。

上記会員数の拡大運動や活動とともに、各支部の活動をどのように運営していくかも検討事項になるのではないかと思ひます。京都支部では先進的な活動をしてはいますが、一方では他支部のように月例会を開催することも考える必要はないかと思ひます。具体的には、大会報告やガイドラインの検討など日常活動を進めることも大事であり、それによって問題となっている会費納入率も高まるのではないかと思ひます。すなわち、今後支部委員とその他の会員との交流、会員同士のつながりを強化することが重要ではないかと思ひます。全体会に出席した感想は以上のとおりです。分科会の報告は別の機会があればしたいと思ひます。

全国大会は盛会裡に終了しました。いま再び来年の大会に向けて会員各自の活動が開始されました。来年の大会時には、京都支部の発展と会員個人々の成長の成果が見られるようにお互い頑張りましょう。
(むらかみ・みよじ／龍谷大学教育事業課)

お薦め本コーナー

『情報を使う力：大学と図書館の改革』

パトリア・セン・フルイック E.ゴドフ・キ著 三浦逸雄・宮部頼子・斉藤泰則 訳
勁草書房 (1995.1) ¥3,811

小林 倫道

全国大会に参加された皆さん（といっても京都支部は数人でしたが）、大変お疲れ様でした。私も一昨年ぶりに参加し、色々勉強させて頂きました。行き帰りは、支部報に色々な交通機関を紹介させて頂いた手前、一番安い「青春18切符の旅」を実践してきましたが、予想より大分すいていたので往復とも座席にゆったり横になって（何が「ゆったり」かは人によって感覚の相違がありますが）旅することが出来ました。

さて、その全国大会の感想。近ごろ巷では「ネオダマ」ばやりですが（知らない人、誰かにきいて下さい）、これだけ一般社会が物理的に進歩しているのに、例えば分科会の議論が、各大学の現状や不満を吐出しただけに終わってしまっていて良いのだろうか、という気が正直のところしました。仮にも図書館が情報の先端を云々するのであれば、せめて電子メールで分科会ごとに参加者間でプロフィールや職場状況の情報を交換しておくとか、問題意識をしぼるため基本レジメはあらかじめ参加者宛に発信しておくぐらいの、スマートな情報流通があってもいいと思ひます。別に電子メールに限らなくてもいいんですが、きょうび、ワープロだって通信ぐらい出来るんですから、ネットワークがらみの分科会ぐらいは電子メール利用を義務づけてもいいと思ひます。大図研会員の皆さん、趣味と研修をかねて何らかのパソコン（ワープロ）通信ネットワークに参加しましょう。N i f t y -

『情報を使う力：大学と図書館の改革』(目次)

<p>第1章 新しい図書館 図書館の役割の拡大 過去の学長たちのビジョン 新たな協力関係の構築</p> <p>第2章 情報社会と高等教育 情報爆発 教育者に対する新しい挑戦 情報対知識：重要な区別 高等教育への挑戦 新しいリテラシー概念 新しいリテラシー基準の適用 情報化時代の教育理念</p> <p>第3章 授業の改善 指定図書制度、講義、教科書 カリキュラムへの図書館中心学習の導入 積極的な統合学習のための指導力 生涯学習と積極的な市民生活のための情報リテラシー 専攻分野における情報管理技能</p> <p>第4章 研究生産性の促進 研究支援の強化 研究者としての図書館員 大学指導者は何が出来るか？</p> <p>第5章 地域サービスの改善 利用者ニーズの理解とそれへの対応 資金調達：いくつかの微妙な問題 資金調達とサービスの一体化 資源の共同開発：いくつかの事例經過 地域社会へのサービス</p> <p>第6章 経営管理活動の支援 計画策定と資金調達に対する支援 地域の高等学校および学校教職員との関係 学生募集 学生の学業継続</p>	<p>第7章 革新期における図書館 図書館蔵書の変化 図書館蔵書の全国的問題 技術の進化 技術を用いた情報資源の効果的な管理 図書館とコンピュータ・センターの関係 施設の変化</p> <p>第8章 情報アクセスの拡大 初期の取り組み 協力活動の障害 資源共有の神話と真の問題との識別 大学キャンパス外コースのための情報アクセス問題 アクセス：大学指導者の役割</p> <p>第9章 人の問題 図書館長の評価 新しい図書館長の選考 図書館長の組織上の位置 図書館員と教育身分 給与格差問題 学長の指導力</p> <p>第10章 資金獲得の新しい方法 現在の財政事情 学長は何が出来るか？ キャンパス計画と予算再配分 大学財源の再配分 図書館内部の財源再配分 図書館サービスの有料化 助成金と研究委託 資金集め 州レベルおよび国レベルの取り組み</p> <p>第11章 情報社会を教育のために生かす 情報活動における調査・分析 図書館との類似点 分化と統合 学長の指導力</p>
--	---

情報を使う力

大学と図書館の改革

●パトリシア・セン・ブレイク E.ゴードン・ギー
三浦逸雄・宮部頼子・斎藤泰則 訳
INFORMATION LITERACY: Revolution in the Library
Patricia Senn Breivik / E. Gordon Gee

情報社会における大学の使命と目標の達成に図書館はどのように貢献できるか。情報リテラシーを基調に、図書館のとりべき戦略とビジョンを提示。 勁草書房

Serveなら会費はタダみたいなもんだし、ASAHIネットからはあのインターネットだって覗くことだって出来る（但し、画像は無理で文字だけです。でも却って初心者向けかもしれません）。機械を持ってない？。じゃあIDだけ取っという友人か職場のコンピュータで受信させてもらえば良い・・・。

あれあれ、話が脱線してしまいました。さて本題。この『情報を使う力』、どうも「情報リテラシー」というとどうしてもコンピュータ屋さんのイメージがあるのですが、勿論この本はそれにとどまりません。まあ目次を見て下さい。今、大学や図書館で問題になっているような事柄が、ほとんどもれなく網羅されているではありませんか。情報先進国アメリカの現状から情報とは何か、情報の爆発に対して人間はいかに処すべきか、そのために教育はいかにあるべきか、その体制づくりに何が必要なのか、と鋭く問いかけてくるのです。「指定図書は学生の文献アクセスを結果的に狭めるからダメだ」とか「本は絶版になっても世の中のどこかに存続するからいいが、オンライン・データベースだとそうはいかない」とか、ドキッとするような示唆が随所に散りばめられていて、読み応え十分。うちの図書館でこの本を課題図書にして皆んなで読むことにしたんですが、大図研でも関東の方でこの本の勉強会が出来たそうな。是非、職場の皆さんで取り上げられてはいかがでしょうか。

ただひとつの難点としては、翻訳であるがゆえの読みにくさが若干ある。だから、最初から大上段に構えて「読破してやろう」なんて思わず、目次を見て面白そうなところから拾い読みされることをお勧めします。私は、目次をわざわざワープロで打ち直したやつをしおり代わりにして、関連のあるところをあっちこっち飛びながら読みました。「何もワープロで打ち直さなくても」と思われるでしょうがこれが全然違う。これから読まれる方は上に掲載した目次を拡大コピーしてご活用を。噛めば噛む程味が出る『情報を使う力』。オススメです。
(こばやし・ともみち/京都橋女子大学図書館)

※ 第4回大学図書館員京都研究集会 ※

公告



あなたもインターネットで世界へ

京都支部ではインターネットをテーマとして研究集会を実施します。

インターネットの進展によって、全世界の情報を居ながらにして収集することが可能になり、図書館としてもこれらの情報やツールを無視することが出来ない状況となってきました。

例えば日本では、大学図書館を中心にOPACやインフォメーションをインターネット上で開放したり、TRCなどの流通会社が図書の新刊情報を抄録付きで提供し、発注をも可能にしています。また海外ではLCがコレクションの紹介を行ったり、UnCover社が雑誌のコンテンツ情報の提供やドキュメントデリバリーサービスを行ったりしています。

今回の研究集会ではインターネットの概念について講義を受け、実際に端末を通してネット体験して頂く機会を持ちたいと思います。操作はカンタン、講師も一流。ぜひ気楽に申込んで下さい。「コンピュータはどうも」とお嘆きの貴兄貴女、格安で「世界」に触れる絶好のチャンスです。お誘い合わせの上、どうぞご参加を。

日時 10月15日(日) 10:00~16:00

場所 立命館大学びわこ・くさつキャンパス

講師 津田圭司 氏 (立命館大学教育研究システム課)

参加費 2,000円 定員 70~80人

申込方法 往復ハガキで「第4回大学図書館員京都研究集会参加希望」と明記の上、氏名、所属、連絡先を(返信側にも返信先住所氏名を忘れずに)記入し、下記宛てにお申し込み下さい。交通機関等の詳細を記したものをお送りします。

申込先 〒606-01 京都市左京区吉田牛ノ宮町
京都大学人文科学研究所 堤美智子 宛

問合せ ☎ 075-753-6907 (同上) まで